

第五 經濟ニ關スル事項

一、日滿支經濟建設要綱

昭和十五年十月三日閣議決定ヲ見タル本要綱ハ滿側ト內的連絡ヲ
 遂ケツツ企畫院第一節ヲ中心トシテ立案セラレタルモノニシテ滿
 洲國ハ同一内容ヲ其ノ國策トシテ決定シ之カ公表ハ米國大統領選
 舉終了ノ上十一月五日日滿同時ニ行ヒ特ニ其ノ形式ハ日本側ニテ
 ハ「滿支ニ對シ……」ヲ期待スルト表現シテ其ノ獨立ヲ尊重シ滿
 洲側ニテハ筋力要綱ト稱シテ日本ヲ中心トシ一體タルノ精神ヲ表
 明スル如ク留意セラレタリ

中華民國ハ未タ此ノ種要綱ノ正式決定期ニアラサルヲ以テ特ニ措

置スル所ナク又其ノ内容ニ於テモ綜合開發ハ主トシテ北支蒙疆ニ
 期待スル程度ニシテ支那全域ニ及ハス、ココニモ日滿ヲ樞軸トス
 ル趣旨存スヘシ

2 生活圏擴大編成ノ爲ノ自存圏ノ範圍決定ニ關シテ海軍ハ特ニ海南
 島ヲ北支蒙疆ト同様重視スヘシト主張シテ讓ラス遞信當局亦之ニ
 協同シタルカ爲本案成立ノ爲政治的ノ必要アリテ之ヲ前進獵點ト
 スル如ク南支沿岸特定島嶼トシテ加ヘタルモノナリ即チ海軍トシ
 テハ海上交通ノ特性上距離的ニハ蒙疆ヨリモ近クシテ重要性亦極
 ノテ大ナリト稱シ遞信省ハ舟ノ發達上ヨリ右意見ニ便乗シタルニ
 對シ他ノ各廳ハ我國經濟力ニ鑑ミ中支ト雖モ實分自存圏ニ含メ得

サルコトヲ主張シテ反對シ海南島カ軍事上必要ナルコトハ認ムル
 モ本要綱ハ經濟建設ノ爲ノモノナレハ滿洲、北支、蒙疆ニ止メ度
 ト主張セル結果ノ妥結ニシテ實行ニ當リ力ノ分散ヲ誠ムルコト特
 ニ緊要ナリ

3. 日滿ノ特殊關係ニ就テハ「滿洲國ハ皇國ト不可分離系ヲ盛々鞏化
 シ支那ハ日滿ト協力スルコト」「日本ハ滿洲ヲ指導育成スルコト」
 等ヲ明示シテリ

々滿洲ノ機械工業（自動車、飛行機ヲ含ム）兵器工業ハ國防上ノ要
 求ヲ充足スル限度ニ止ムトアリシテ興スト改メ制限の觀念ヲ是正
 セラル尙其ノ限度ニ就テハ陸軍ニ於テ遠ニ具體的研究ヲ遂クル要

88.

アルニ鑑ミ十五年秋陸軍省主務者軍需産業視察ヲ行ヒ其ノ結果一
 滿洲軍需産業指導要領一ヲ作成スルコトトセリ

輕工業ニ關シ滿洲國內ノ需要ニ適應シ之ヲ起ストアルハ日本ニ於
 ケルモノヲ整理シ大陸移動ヲ行フトアル點ト照應シ積極的意味強
 シ蓋シ從來ノ大陸ヲ市場トスル方針ヲ變更セルモノニシテ日本ハ
 高度産業ニ重點ヲ置キ飛躍セントスルモノナリ而モ大陸資本ヘノ
 移管ヲ考慮シアル如キハ一ノ英斷ナリ

開拓民送出ノ促進ハ愈々積極化セントスルモノニシテ別ニ人口政
 策基本要綱設定ニ際シテハ現計畫ヲ倍加スル觀念ニテ論議セラレ
 アリ尙勞務ノ部ニ於テハ開拓民チ一般勞務者ト區分シテ取扱ヘリ

交通ノ部ニ於テ航空ノ一元の統制連絡トアルモ意味適確ナラス滿
側ヨリ意見アリタルモ修正ノ機ヲ逸シタリ本件「日滿支航空輸送
會社業務指導要綱」等審議ノ際注意シ滿航ノ使命特性ヲ生カシ監督

ノ一元化ヲ審セサル様注意ヲ要ス

5. 本要綱ノ具体化促進ハ陸軍ノ努力ニ俟ツモノ多シ蓋シ其ノ本質日
滿支綜合ノ問題ニシテ長期ニ亙ルモノナレハ大局的見地ヨリ裁定
スル要アレハナリ之カ爲ニハ先ツ機會アル毎ニ本要綱ノ方針ヲ体
シテ一般ニ周知セシメ且此ルヘク速ニ日滿支綜合計畫機構ヲ整備
シテ期間計畫、年度方針等ノ確立ヲ圖ラサルヘカラス

ニ日滿支經濟協議會設置要綱（一六三二六 閣議決定）

ノ暫定ノ意義

日滿支經濟ノ綜合計畫機構トシテハ三案ヲ考ヘ得ヘシ即チ特別ノ組織ヲ設ケスシテ現機構運營ニヨル案（甲）三國協議機構ヲ組織スル案（乙）之ニ至ル段階トシテ支那ハ興亞院ニテ代表シ日滿兩國官吏ニヨル協議機構ヲ組織セントスル案（丙）之ナリ而シテ暫定的措置トシテ本要綱ヲ定メントスルハ甲案ノ如キ現狀維持ニテハ綜合計畫ノ確立ヲ期シ得サルモ今直チニ乙案ニ進ミ得サルヲ以テ可能ノ範圍ニ於テ一步ヲ進メントスル趣旨ナリ

2 反對意見ト陸軍主張

本案ハ昭和十六年二月十二日企畫院參與會議ニ於テ審議セラレタ

ル庶大蔵省ハ甲案ヲ可トスル意見ヲ主張セリ其ノ理由歷上歷ヲ架
 スト謂フニ在ルモ眞意ハ財政ノ責任當局トシテ長期計畫乃至ハ年
 度計畫ニ關スル方針ノ確立カ拘束力ヲ持ツコトヲ欲セサルニ在リ
 トモ判明セラル、蓋シ大使館經濟處ヲ強化セハ本委員會ヲ必要ト
 セストノ大蔵省代案ハ自ラ直轄滿洲國官吏ト協議シ之ヲ指導セン
 トスル意圖ナルコト察スルニ難カラス、之ニ對シ軍ハ本協議會ハ
 事實上ノ協議機關ニシテ從來ハ日滿官吏個々ニ打合セテ行ヒアリ
 十四年秋歐州戰爭勃發後臨時ニ協議會ヲ開キタルモ組織的ナラス
 シテ一般ニ此ノ總會合ノ恒久化ヲ欲シアリテ之等ニ一ノ體系ヲ與
 フルニ邁キスシテ各廳ノ責任ト權限ニ何等ノ影響ヲ及ボササルコ

ト事務局ト稱スルモ實質ハ協力組織即チ一ノ「溜リ」ナルコト而シテ甲案ニテハ現ニ屢々意志ノ疎隔ヲ來シ實效ヲ收メ得サルコトヲ證明シテ協力ヲ要望セリ

關東軍亦滿洲國ノ獨立ト軍ノ内面指導ニ影響ナキヤテ憂慮シテ事務局ノ運用、企畫立案ノ程度等ニ關シ意見ヲ提出（關參滿密第五二四號）シ來レルモ軍務密第二〇一號ヲ以テ誤解ニ答ヘ説明セリ（參照）蓋シ從來ハ滿側ヨリ打合せニ來ルモ一方的説明ニ止マリ最後ノ決定ハ日本側ニテ行ヒタルモ本協議會ハ滿側ニ十分ナル意見ヲ述フル機會ヲ與フルモノナルニ鑑ミ寧ロ積極的態度ニ出ツルチ至當トス

3. 立案經過

此ノ程組織ハ昭和十四年軍務課ニテ研究シタルコトアリ又東亞交
 通協會案ナルモノ既ニ關東軍トモ打合セテ了セル感案アリ十五
 年十二月企畫院主務者ヨリ長編組案提報セラレタルヲ以テ軍務課
 ハ前記二案中ニ後者ノ趣旨ニ基キ意見ヲ述ヘタル處殆ント軍務課
 意見ノ通り修正セラレタルモノナリ

4. 本質ノ説明

日本ヲ中心トスル協同機關トナスハ單ナル協同ハ完全ナル同意ヲ
 意味スルモ東亞新秩序ノ精神ニ基キ皇國日本ヲ指導者トシ衆議諸
 國ヲ認メントスル趣旨ナリ

事實上ノ協議機關トナスハ條約ニ依ラストノ趣旨ナリ即チ條約ニ
ヨル機關ハ滿支人ヲ平等ニ加フルコトトナリーノ形式ニ隨スルコ
ト日滿經濟共同委員會ノ例ヲ見ルモ明カナリ

5. 現地軍ノ立場

現地軍關係官ハ委員幹事等ノ特定ノ身分ニ拘束セララルコトナク
隨時何レニモ出席シテ發言スル自由ナル立場ヲ保持スルコト適當
ナルヲ以テ特ニ其ノ旨明示セララル

6. 事務局活用ノ要

本協議會ノ價值ハ事務局ノ活動ニ左右セラル事務局ハ協議會ノ御
靡立チ行フモノナルモ之ヲ十分ニ活用スルコト從テ特ニ有能ナル

官吏ヲ配置スルコト緊要ナリ

ク滿洲ノ獨立性ト軍ノ内面指導ニ關スル件

滿洲國ノ獨立性ト軍ノ内面指導ノ立場トヲ確保スル爲ニハ派遣官

吏ニ對シ明確ナル企圖ノ下ニ適時適切ナル指示ヲ行ヒ又陸軍省ニ

於テモ所要ノ指導ヲ加フル外隨時軍主使者出席（特ニ交通關係）

スル如ク留意スル要アリ

三、生産力擴充計畫

△滿洲産業開發五ヶ年計畫ハ昭和十二年一月一ハ以テ有事ノ際日滿

國防上必要ナル資源ノ開發國力ノ増進ニ寄與シ他ハ以テ滿洲團結

成上産業開發ヲ題シ秩序ト協同ノ再組織ノ完成ヲ庶幾シ國民生活

ヲ

ノ安定、民族協和ノ實現ヲ促進スヘキ趣旨ニ基キ策定セラレ發滿
 專務局專務官會議ニ於テ其ノ具現ヲ期シ取進ムル如ク一應決定チ
 見タルモノナリ

右第一年度ノ實績ニ徴シ支那專使勅諭ニ伴フ國防上ノ要求ニ應キ
 主トシテ鐵工業部門ヲ中心トスル擴大的修正ヲ加ハラレ十三年五
 月之ヲ決定シ日本側關係廳ニモ説明シ特ニ對日要領事項ニ歸シ關
 陳スル所アリ（以上滿洲產業開發五ヶ年計畫書彙編參照）

2. 日本ニ於テハ昭和十三年一月三十日閣議決定ノ國策大綱（發表セ
 ス）第四項ノ「向後四年ヲ目標トシ重要産業ノ振興ヲ計リ生産力
 ノ綜合的擴充ヲ爲シ日滿ノ外莫ニ北支等ヲモ加ヘテ全体的計畫ノ

下ニ國防上重要物資ノ供給ヲ確保シ且輸出貿易ヲ促進シテ國際收支ヲ改善シ以テ國防經濟ノ確立、帝國經濟力ノ充實ヲ期スル趣旨ニ基キ昭和十四年一月、十五品目ノ生産力擴充四年計畫ヲ策定シ滿洲北支ノ計畫中日本ノ計畫ト同種品目ニ付其ノ生産豫定額ヲ參考トシテ添付セラル

3. 滿洲ノ五ヶ年計畫ト日本ノ四ヶ年計畫トハ昭和十六年ヲ最終年度トスル點ニ於テ一致シアルモ前者ハ之ヲ以テ滿洲構成ヲ庶幾スル政治目的ヲモ強調セル點ニ於テ特色アリテ計畫内容モ日本カ十五品目ヲ爲クタルニ對シ滿洲ハ産業全般ハ固ヨリ交通部門ニモ及ヒ綜合的ニシテ頗ル積極性ニ富ムモノナリ

右實施ニ關スル各部門ノ日滿綜合化ニ就テハ歐洲戰爭勃發ニ際シ
 之カ我經濟界ニ及ホス影響極メテ大ナルモノアルニ鑑ミ昭和十四
 年十月日滿支經濟協議會（企畫院ヲ中心トスル非公式ノモノ）ニ
 於テ漸ク其ノ端ニ就キ十五、六年度物動打合せノ際逐次具體的打
 合せヲ遂ケラレツツアリ即チ鐵、石炭、輕金屬、液体燃料ニ關シ
 テハ日滿支ニ互ル個々ノ事項ヲ綜合的ニ企畫實行スル如ク右協議
 會ニ於テ申合せ（日滿支經濟協議會續末要錄、同議專速記録参照）
 右各部門ニ就テハ毎年度ノ物動ニ於テ比較的詳細打合せヲ行ヒ滿
 洲ニ對シテハ資材ノ特別配當ヲモ計畫セラレアリ
 五 第二次生産力擴充計畫ニ關シテハ日滿支經濟協議會（一六三、三六四）

議決定)ニ於テ日滿支經濟建設要綱(一五〇三閣議決定)ニ基
 キ。勞メテ具體的且綜合的ニ策定シ計畫ト實施ノ吻合ヲ圖ル要アリ
 之カ爲ニハ政府トシテハ國ニ鐵鋼増産對策要綱、液体燃料對策要
 綱等ヲ決定シアリ、陸軍トシテハ昭和十八年度迄及爾後ノ軍備充
 實計畫、補給根據地推進要綱等ヲ基礎トスル滿洲軍需産業對策要
 綱案等ヲ遂ニ確定シ滿洲ニ對スル國防上ノ正シキ要求ヲ具體的ニ
 決定シ之ヲ新計畫ノ樞軸トナシ總圖計畫ノ遂カナル完成ヲ推進シ
 其ノ積極性ヲ強化スルコト必要ナリ之カ爲考慮スヘキ條件概テ左ノ
 如シ

(1) 滿洲ノ分擔スヘキ目標ハ滿洲自體ノ能力ト日本ノ育成能力トニ

應シ其ノ綜合力ヲ十分ニ發揮スル如ク之ヲ定メ且第三國等ニ對シテ
 經濟提携ニ依ル擴充ヲ豫定スルコト

(四) 日滿ノ經濟力ニ就テハ單ニ現況ヲ寫實スルニ止マルコトナク重
 點構成員ノ徹底、能率ノ向上、企業ノ合理化(經濟新體制確立要
 綱、滿洲特殊會社後能刷新要綱等參照)科學ノ振興、統制ノ進
 歩等ニ關シ現實ニ即シタル活力增強方策ヲ求メ之ヲ前提トシテ
 判定スルコト

(五) 滿洲軍需産業ノ指導育成ニ關シテハ速ニ指導要領ヲ策定シテ之
 チ軍内ニ普及周知セシメ特ニ陸軍トシテハ滿洲建設ノ重要性ヲ
 確認シ之カ育成指導ノ先驅タルヘキ自ラノ歴史的使命ニ備ヘテ

先對策ヲ講シ以テ日滿關係機關ノ積極的活動ヲ推進スルコト

(二) 第二次期間計畫ノ前半期ハ該行調整期間トシテ基礎産業ヲ確立スルコト

右ハ軍備充實カ具體的ニ計畫セラレアル點ト懸隔シ昭和十八年度迄ニ達成スルヲ適當ト認メラル

鋼鐵増産對策要綱

ノ日獨伊三國條約締結ニ伴フ東亞新事態ニ即應シ夫々日滿當局ニ於

テ研究ヲ進メタル要綱案ニ關シ十二月九日、十日ノ兩日鐵鋼會館

ニ關係官協議ノ結果第三圖層鐵ニ依存セサル方針ノ下ニ昭和二十

五年ヲ目標トシテ日滿文ヲ通スル綜合的ノ第二次鐵鋼増産計畫ヲ

102

確立スルノ要綱案及滿洲鐵鋼開發要綱案ヲ作成セリ

2. 陸軍及滿洲側ニ於テ特ニ要望セル點左ノ如シ

(1) 特ニ第三國屑鐵ニ依存セサル方針ヲ明確ナラシムルコト

(2) 日滿支ノ事業ニ關シ一体的運営ノ措置ヲ講スヘキコト

(3) 滿洲側ヨリ擴充ノ重點ヲ滿洲ニ置ク件明記ヲ要望セルモ此ノ點

ハ日滿支經濟建設要綱ニ示サレアリ尙北支ノ立地條件亦顧ル可

ナル如キヲ以テ敢テ滿洲ノミト限定セサルコトシ滿洲ニテ一

翼分擔ノ趣旨ヲ明示スルコトニナレリ

(4) 日滿支ニ於ケル原料用炭ノ合理的配分及勞力ノ需給ニ遺憾ナカ

ラシムルコト

103.

1848

3. 以上研究ノ結果日本ニ於テハ昭和一五、一六ニテ閣議ニ於テ鐵鋼生産力擴充計畫ヲ決定之ニ應シテ滿洲ニ於テハ滿洲鐵鋼開發要綱案ヲ作成シテ日本側ノ瞭解ヲ求メ來リ昭和一六、一七ニテ對滿專務局ニ於テ關係應ノ瞭解ヲ得タリ

4. 兩國ノ輿情ハ一體ヲナスモノナルモ日本側ハ特ニ緊急的對策ヲ重視シ滿洲側ハ將來ノ増産即チ第三次生産力擴充計畫ノ基礎タルコトヲ重視シ觀念上若干ノ差異アリ日本側カ現在ノ努力ヲ第一トスルハ可ナルモ將來ノ計畫ハ之ヲ促進セサルヘカラス滿洲側カ將來ノ希望大ナルハ可ナルモ現在ニ最善ヲ盡スハ急務中ノ急務ナリ此ノ間ノ歩調ヲ一ニスルハ軍ノ指導ニ俟ツモノ多シ

10%

五 液体燃料政策要綱

昭和十二年決定ノ人造石油製造專業振興計畫ニ於テハ昭和十八年
 度ニ於テ日滿兩國ヲ通シ揮發油及重油各百万坪ヲ生産セントスル
 ニアリシモ昭和十五年十二月二十七日閣議決定ノ本要綱ハ昭和二
 十年ヲ期シ年産四〇〇万坪ヲ確保セントシ又蘭印及北緯太石油ノ
 取得量ノ増加及國內貯油量ノ増加ニ對スル具体的方策ヲ定メタル
 モナリ

(1) 本要綱ニハ滿洲ニ於テハ人造石油二一五万坪ノ生産ヲ會社ニ配
 分計畫シアルモ資材ノ配當、石炭ノ増産、專業ノ保護、製品ノ
 配給等ト綜合的ニ再檢討ノ要アリ

(四) 又滿洲ニ於テ生産スル製品ノ處分ハ陸海軍ノ直接調達額ヲ控除

シ剩餘ヲ口滿ニ於テ折半スルコトヲ原則トシアルモ本件ハ需要

ノ現況ニ則シ毎年ノ物動貯蓄ヲ以テ定ムヘキナリ

(五) 價格決定モ充分ニ滿洲ノ特殊事情ヲ考慮ノ上適正ニ之ヲ定ムヘ

キモノニシテ一方的ニ其ノ方法ヲ日本ノ決定トスルハ適當ナラ

ス

又本要綱ハ滿洲國ニ係專賣アルニ不拘滿洲側ト打合テ行フ餘裕ナカ

リシモノナリ茲シ同案ノ審議ニ當リテハ滿洲事務局次長參與トシ

テ出席シ陸海軍省整備局關係官亦出席シアリシカ何レモ滿洲側意見ヲ

反映スル手續ヲ了シテラサリシモ本案ハ抽象的内容ニ止マルモノ

ト恩惟シ重要視セサリシ關係上決定後關東軍ヨリ異議アリ之ニ對シテハ今後ノ實行ニ當リテ十分協議スルコトトシテ一應瞭解ニ達シアリ

3. 撫順黃岩瀝油第二期五十万吨増産計畫基本要綱（昭和十八年六月六日）
 對滿專務局一部專務官會議決定（昭和十八年末迄ニ完成スル數定ニテ一億五千三百万圓ノ專費ヲ決定セルカ算トシテハ本計畫遂行ノ爲ニ既定ノ滿鐵專費計畫ニ影響ヲ及ホササル加ク日滿兩國政府ニ於テ努ムルコトヲ主張シ同決定ノ諒解事項トシテ附記セシメタリ

六 滿洲軍需産業指導要領案

ノ起案ノ経緯

日滿支經濟建設要綱ニ基ク第二次生産力擴充計畫ノ樞軸タルヘキ
軍需ニ關シ正シキ目標ヲ定ムル爲昭和十五年九月二十五日ヨリ十
六日簡體總局長以下關係局長約十四名滿洲軍需産業ヲ視察シタル

結果工政課ニ於テ起案シタルモノナリ

2 要 旨

本要綱ハ其ノ内容ヲ三大別シ得ルモノニシテ今後十年間ノ規模及
目標(具體的數字ハ昭和十八年迄ノモノ)ヲ明確ニシ(甲)關東
軍及關係軍需物資部隊ノ樂務及軍需監察(關東州ニ在リテハ軍需
監督)制度トノ調整(乙)及軍需工業指導要綱(陸密第四四二號

2 108

一五三—一五次官ヨリ關係陸軍部隊へ依命通牒）ニ基ク滿洲ニ於テ
指導ノ要則（丙）ヲ陸軍關係機關ニ周知セシメントスルモノナリ

3. 手續形式

先ニ朝鮮ヲ視察シタル結果昭和十五年六月二十一日朝鮮軍需産業
指導要領（陸密第一二三一）ナルモノヲ次官ヨリ依命通牒セラレ
タルカ滿洲國ニ關シテハ之ト同一ノ手續形式ニ依ル能ハス即チ甲
ハ陸軍省ノ希望數字ニ基キ關東軍ト打合セタル上要領シ乙ハ關東
軍ト協議シ（特ニ軍需監察制度ニ關シテハ關東軍ノ主務ナリ）丙
ハ主トシテ關東軍ノ意見ニ基キ措置セラルヘキモノナリ

中日滿自動車工業確立要綱案

陸軍案ノ成立及内容ノ骨子

昭和十五年一月關東軍ノ提案ニ基キ整備局ヲ中心トシテ研究ヲ進

メ二月七日次官ノ決裁ヲ受ケタリ内容ノ骨子ハ左ノ如クニシテ國

防ノ完備時ニ戰時補給ノ萬全ヲ期スルモノナリ

(1) 約七年間ニ日本内地ニ九万臺、滿洲ニ三万臺ノ製造能力ヲ整フ

(2) 日産工場ヲ主体トスル約二万臺ノ製造能力ヲ滿洲ニ推進シ新案

ノ基礎ヲ確立ス

(3) 日本ニ於ケル自動車工業ヲ合理化シ整備能力ヲ向上ス

(4) 規格ノ統制、部品ノ共通、技術及研究ノ相互利用等ニ關シ日滿

一体ノ實ヲ舉ク

(4) 朝鮮及支那ニ於テハ差當リ所要ノ組立工場ヲ建設スルニ止ム

2 實現促進ノ基礎事項

右陸軍案ハ商工省當局ニ於テ概ネ諒解セルモ遽ニ其ノ大綱ヲ日滿
 一体ノ重要國策トシテ決定シ之ヲ不動ノ方針トシテ業者ニ示シ此
 ノ國策ノ線ニ沿ヒ業者ノ責任ト創意トチ尊重シツツ官民協力シテ
 具體的計畫ヲ設定スルヲ要ス之カ爲ニハ業者中ニ存在スヘキ現狀
 維持的舊體制意見ニ追隨セサル如ク政府特ニ軍ハ企業新體制ノ範
 タルヘキ感案ヲ有セサルヘカラス即チ統制會社案ヲ第一義トスル
 モ之ト實質的ニハ大差ナキ指導者原理ニ基ク組合案亦新體制タル
 ヘシ特ニ其ノ指導者タルヘキ人物ニ就テ案ナカルヘカラス

3. 陸軍ニテ推進スル意欲

本件ハ國策トシテ決定アリタル經濟新体制確立要綱ノ實例ヲ示シテ他ノ範ヲナシ國防上ノ切ナル要請ニ基キ陸軍ニ於テ特ニ積極的ニ推進スル要大ナリ又日滿ヲ通スル大事業ニシテ日滿一体ノ實ヲ擧クル具體的重要問題トシテ之亦他ノ範ヲラサルヘカラス官民一致目標ノ爲ニ最善ヲ盡ス如ク軍ニ於テ指導スル爲ニハ軍内先ツ一致目標ヲササルヘカラス此ノ點ニ就テハ關東軍ノ提案以來特ニ軍務、裝備兩局ノ連携協力ニ努メ今日迄極メテ緊密ニ進ミツツアリ

本件實現ハ計畫完成後ト雖モ資材等ノ關係上尙相當ノ時日ヲ要ス

ヘク滿自ヲシテ此ノ開修理及工員養成ヲ行ハシメテ基礎確立ニ一
歩ヲ進ムルコトトシ之カ爲陸軍ニ於テ特ニ資材等ヲ斡旋スルコト
トナレリ又滿自山本理事長ノ專出ニ對シ陸軍ノ斡旋ニヨリ輸入セ
ルライカミング、マシントノ利用ニ關シテハ目下ノ處滿洲ニ使
用スルヲ可トスル意見ナリ

ハ物資、資金、貿易ニ關スル計畫實施

ノ物資動員

(1) 決定ノ基礎ハ國家總動員法及輸出入品等臨時措置法ニシテ其ノ

實施ニ關シテハ昭和五年關係廳申合ニ係ル總動員基本計畫綱領

總動員庶務要領及昭和十五年度以降國家總動員計畫設定方針(

昭和一六閣議決定)ニ據リ毎年度ノ物動計畫設定事務要綱ヲ企

畫院起案シ各廳協議決定シ之ニ基キ年度物動計畫ヲ閣議ニ於テ

決定セラル

(2) 物動ノ實施ハ日本ニ於テモ計畫ニ比シ實績著シク振ハス殊ニ滿

洲物動ハ對日供給對日期待共計畫ト實施トハ殆ト遊離シアリ

資材不足ノ實情ニ係リ日滿支經濟協議會ノ機能發揮、經濟新體

1859

制ノ確立等ヲ促進シ以テ計畫ト實行トノ吻合ヲ圖リ具體化セラレタル重點ニ指向スルハ急務中ノ急務ナリ

ハ關係部局ノ特性ヲ發揮シ且ツ統一性ヲ強化スル爲ニハ軍務課ニ於テ年度物動計畫指導要領トシテ概ネ左記條件ニ關シ方針ヲ確立スル要アリ

軍需ニ關スル事項（現地消費物資以外ヲ一般對日供給ニ算定スル原則ニ基ク調整、現地取得ト追送トノ關係調整）

海軍需ニ關スル事項（海鐵、電々、海航ノ豫算ト物資トノ關係調整）

生産力擴充ニ關スル事項（軍ニ於テ斡旋援助スヘキ事業及軍需ヲ以テ援助スヘキ事業ノ具體的決定）

對日供給（重要物資ノ實行性檢討）

對日期待（重要物資ノ實行性檢討）

2. 日圓資金計畫及實施

(1) 對滿投資計畫ハ貿易計畫（物動物資及物動外物資特ニ生活必需

品ニ付計畫）ニ即應スヘキモノナルモ現狀ニ於テハ物ト金ト兩

方ノ立場ヨリ計畫セラレ資金自體ノ力ハ依然強大ナリ

對滿投資總額ハ事變遂行中ハ昭和十五年度計畫ノ十億六千万圓

ヲ以テ標準ト見做シ得ヘシ

註 昭和十四年末迄ノ對滿投資總額三〇億五三一八萬圓

昭和十四年 一一億〇三七一万圓

昭和十三年 四億三九四八萬圓

昭和十二年 三億四八二七萬圓

生産力擴充、開拓政策等重要國策ノ爲充分ナル資金ヲ充當スル
如ク計畫スル要アルモ瀋炭、瀋拓、等資金ノ回收率低キ方面へ
ノ投資ハ日本財界トシテハ之ヲ欲セサルノ故ヲ以テ瀋洲國債
ニ依リ集メ得ル資金ヲ引當ツル如ク計畫セラレアリ

(註)日圓資金調達ハ年度計畫ヲ企畫院ニ於テ又四半期計畫ヲ對瀋事
務局ニ於テ協議決定シテ實施セラル其ノ實績ハ物動ノ場合ト異
リ總額ヲ超過スル傾向アリ(但昭和十五年度ハ計畫ニ對シ五千
萬圓減)然レトモ國策上重要ナル方面ヘノ資金募集ハ頗ル困難
ニシテ瀋洲側ハ十五年強度ノ爲營管理ヲ行ヒシカ尙既發駐生擴
機器ヲ引取り得サル如キ事例乏シカラザルヲ以テ金融新體制ノ

117

1862

確立ヲ絶對必要トスルモ取敢エス對滿投資方式ノ改善ニ關シ昭和十二年十二月武部總務長官上京シ關係方面ニ善處方要望スル所アリ（滿洲國債一部日銀引受、滿拓公社ニ對スル豫金部資金ノ貸出、日銀タレデット恒例化、對北支爲替決済及爲替立替ノ爲ノ圓資金増額等）右ノ外尙軍事費送金時期ノ繰上、交流物資價格ノ調整（第五ノ九參照）、對日輸出ノ増加、不要不急品ノ滿關輸入取締ノ徹底等各種ノ手段ヲ必要トスヘシ

以外貨資金ニ就テハ國際狀勢ノ變化ニ伴ヒ滿洲國ノ計畫ハ極度ニ壓縮ノ巴ナキニ至リ昭和十五年度ハ一億圓ノ立替ヲ日本ニ要求シ七千萬圓ヲ認メラレタルモ日銀トシテハ圓資金ヲ以テ買取ラレ度トノ希望ヲ有シアリ

(二)昭和十五年七月大藏省事務當局ニテ「滿洲國日圓資金及經濟對策ニ關スル件」ヲ起案シ對滿事務局ニ於テ之ヲ研究シ事務官會議決定トシ度申出アリ本案ハ生産力擴充、開拓、北邊振興ノ再檢討、共同國防費、軍調辨價格ノ調整、滿洲經濟ノ計畫性向上企業形態及組織ノ合理化等ヲ滿洲國及軍ニ要求セントスルモノニシテ日本側ノ當時ニ於ケル一般對滿觀念ヲ反映シ金融ノ面ヨリスル緊縮政策ヲ主張セルモノナリ本件ハ第二次生産力擴充計畫ヲ研究スヘキ時期迫リ滿洲ニ對スル國防上ノ要求累加セル時ニ於テ消極的空氣ヲ醸成スル虞レモアリ殊ニ滿洲國自體ノ問題ト軍事費ニ關スル問題等ヲ取扱ヒアリ此ノ如キ形式ハ從來ノ指

導方針ニ反スルヲ以テ軍務課ニ於テ握リ潰シタリ

(4) 昭和十五年十一月外國爲替管理令中一部改正セラレ關東州及舊

滿鐵附屬地ニ對シテモ爲替許可ヲ行フコトニナリシモ右ハ事前

ニ滯働ニ連絡ナキ一方的處置ナリシヲ以テ運用上ノ要件ヲ對滿

事務局ヨリ大藏省ニ交渉シ大藏省ヨリ文書ヲ以テ回答スル所ア

リ(昭和一五一一三三對滿第四三〇號)

右ニ關聯シ大藏省ハ對滿投資ニ關スル爲替許可方針ナルモノヲ

決定シ之亦滯働ト打合セセサリシヲ以テ滯働ヨリ本件實施ニ關

スル諒解事項案ヲ提起シ對滿事務局ヨリ大藏省ニ申進メタリ

(昭和一五一一三三對滿第四六三號)

3. 日滿間貿易計畫及實施

(4) 昭和一九五八年始メテ年度計畫ナルモノ企畫院貿易委員會ニ於テ決定セラル右ハ日本側ノ一方的決定ナリシヲ以テ之カ運営ニ關シ海關要望ヲ提起セリ(一五八三重發第一〇〇三號)

右ノ内輸出價格ヲ日本國內價格並ニ引下クヘキ要望ニ就テハ一九五八一九閣議決定ノ海關支輸出入物資價格調整要綱(次項參照)決定セラレタルモノ之ヲ實行スル爲新設セラレタル東亞輸出入組合聯合會(東輸聯)ノ取扱品目ハ貿易品全部ニハ及ヒアラサルヲ以テ未タ徹底スルニ至ラス

前項ノ外軍務課ヲ通シテ海關ヨリ要望セル諸件ニ關シテハ未タ特別ノ措置講セラレアラス(多才多量)料ノ撤廢、統制料ノ合理化、船車配當及運賃諸費ノ適正化、貿易品生産ノ爲ノ原材料ノ

計畫的配給、生産命令及輸出命令發動、滿洲ノ特殊事情ヲ考慮
スル輸出品規格ノ決定、再輸出額ノ計上及再輸出品ノ區分、通
過地域ニ於ケル租稅及公課等ノ免除等)

(四) 國際情勢ニ對處シ貿易ノ全面的管理ヲ實施スル爲滿洲國「貿易
統制法及康德四年勅令第四四六號貿易統制令ニ基ク輸出及輸入
ノ制限ニ關スル件改正要綱」ヲ一五九五對滿事務局事務官會議
ニ於テ決定セリ

九、對滿支輸出物資價格調整要綱

一、本邦ニ於ケル物價ハ所謂一九一八停止令(價格等統制ノ應急的措置
ニ關スル件)ニ基キ低物價ノ維持ニ努力セルニ關滿支物
價トノ格差逐次擴大トナリ爲ニ之等地域トノ間ノ物資ノ圓滑ナル

122

交流ヲ阻害シ且ツ本邦物價ニ悪影響ヲ來セル實情ニ鑑ミ昭和十五年八月十五日本要綱閣議ニ於テ決定セララル

2 本要綱ハ日支間貿易ニ於テハ調整料ヲトルコトトシ日滿支夫々輸出入設備ヲ整備スルコトヲ骨子トスルモノナルモ對滿輸出入物資價格ハ原則トシテ本邦國內價格ニ依ラシムルコトヲ定メアリ但シ當初滿洲ニ對シテモ調整料ヲ徵スル案ナリシモ軍トシテハ滿洲ハ日滿一體ノ見地ヨリ低物價政策ヲ強行スヘキコトヲ強調シタル結果右ノ如ク變更セリ（其後滿洲物價騰勢著シトノ情報傳ハリ滿洲ニ對シテモ調整料ヲ取ルコト已ムヲ得サルベシトノ論再ヒ起リタルモ右ハ日滿一體ノ低物價方針ニ反スルモノニシテ滿洲ノ低物價政策ノ放棄ハヤガテ日本ノ低物價政策放棄トナルヘキヲ審

テ既定方針ニ適従スルコトトセリ

3. 單ハ此際從來ノ實績主義ニ拘泥セサルコト現行割當量制度、入札制度及超過割當制度等ヲ廢止スヘキコト特ニ貿易計畫ニ定メラレタル數量確保ノ爲ニハ輸出獎勵、輸出命令等ノ方法ヲ講スル必要アルコトヲ主張シタルモ主務廳タル商工當局ハ輸出命令ノ如キハ必要ニ應ジ實施スル旨回答シ成文化ニ至ラズ

又關東州ニ爲テハ既存ノ事實ヲ尊重シツツ滿洲ト一體の統制ヲナス如キ國關ヲ設ケ支那向再輸出品ハ之ヲ別途割當スルト共ニ其ノ密輸出ヲ阻止スル方法ヲ講スルコト、ナレリ

10. 日滿物價調整

1. 日本ノ物價統制大綱（昭和一年五月閣議決定）ニ對應シ滿洲國ハ八

月滿洲國時局物價政策大綱ヲ決定セリ更ニ企畫院提案ノ日滿支間
 價格政策ノ協力ニ關スル件（昭和十四年十月十八日）ハ滿洲ニ強
 カナル價格政策ノ實施及輸出入配給機構ノ整備擴充ヲ計ルコトヲ
 要望シ日滿ハ一體的價格政策ヲ採ルヘキ趣旨ヲ強調セルモ何レモ
 具體策ニハ及ビアラス
 一方滿洲ニ於ケル實情ハ國內ノ特殊事情、北支物價高ノ影響及主
 トシテ日本ニ期待シアル生活必需品價格騰貴等ノ結果物價ハ上昇
 ノ一途ヲ辿リ來レリ
 更ニ關東州ニ於ケル物價統制ノ實情ハ過去ノ自由港時代ノ性格ヲ
 清算シ得ズ日滿兩國ノ價格統制ニ即應セサル結果ハ日滿ノ一體的
 物價政策ノ實施ニ間隙ヲ生セシムルモノアリ

2. 關東州物價對策ハ形式上日本ノ法令ニ據リ實質上滿洲ト一體タル如ク措置スヘキ旨十五年九月軍務課ヨリ對滿事務局ニ提案セシモ實現ニ至ラズ

3. 日滿支輸出人物資價格調整要綱ハ日本品ヲ日本國內價格ニテ輸出スルコトヲ定メアリ

各滿洲ヨリ日本ニ供給スル物資價格ハ日本價格ニヨルヘキコトハ日本側ノ主張ナルモ建設途上ノ滿洲トシテハ差當リ實現困難ナルヘク唯コレヲ目標トシテ歳費ヲ盡スヘキモノト思惟ス之カ爲ニハ昭和十五年八月日滿支貿易計書打合ノ際ニ左記調整方針ヲ滿洲ヨリ提議セリ本件ハ以テ滿トモ協同經濟ノモノニシテ今後ハ之ニ基キ個々ノ品目ニ付相互ニ充分ナル協議ヲ遂クル要アリ

(1) 對日輸出入物資ノ價格ニ付テハ原則トシテ日本統制價格ヲ基準トスルコト

(2) 對日輸出品價格ニシテ滿洲側増産計畫實施ノ道程ニ於テ日本統制價格ニ依リ雖キモノニ付テハ特ニ考慮スルコト

(3) 日本統制價格ニシテ補助金、助成金等ニ依リ調整セラレタルモノニ付テハ當該調整ヲ加ヘサル價格ニ依リ滿洲側ノ輸出ヲ行フコト

(4) 滿洲側ヨリ輸出スル重要物資ノ日本側統制價格ヲ決定スル場合ニハ滿洲側事情ヲ充分考慮スルコト

昭和十五年度主要物資價格決定ニ關スル日滿間ノ協議ハ左ノ主眼ニ依レリ

(1) 輸出價格ハ現在及將來ノ石炭騰貴ヲ考慮セル原價計算ヲ

基礎トスル適性價格ニ依ルコト

2. 軍ノ特殊價格ノ調整（陸海密第八六三號）

3. 滿鐵特殊價格ノ調整（昭和製鋼所移讓ノ際ノ協定ニ依リ

軍ノ價格ト同値ニテ賣却スルコトニナリ居レリ）

(ii) 石炭ノ滿洲石炭價格改訂要綱（昭和十五、六、一九）ニ基キ船

炭炭及海出炭ハ船運賃、勞賃ノ値上リヲ考慮シ商工省ノ

豫算ノ範圍内ニ値上ヲ認メ七月十日以降ノ分ヨリ承認セ

リ

2. 陸軍ノ現地調辨分ハ二割ノ値上ヲ同率ノ需要壓縮ヲ條件

トシテ承認セリ

128.

大豆及豆粕

ノ 瀋洲側ノ事情トシテハ大豆ヲ基礎トシ他ノ農産物トノ比
 價ヲ考慮シ日本側ノ事情トシテハ大豆ノ價格値上ハ大豆
 カ内地ノ味噌、醤油、豆腐等生活必需品ノ原料タルニ鑑
 ミ右ノ公定價格ヨリ逆算シ公定價格ノ値上リヲ來ササル
 コト及秋田大豆ノ價格ト均衡ヲ得シムル如ク考慮ス
 2. 豆粕ハ内地ノ米價ニ對スル影響ヲ考慮シ從來ノママトシ
 原價ヲ割リタル額ハ之ヲ大豆ニ振り掛クルコト
 3. 價格統制ノ關係上公定價格ノ値上ヲ行ハズ出荷獎勵金ト
 シ右出荷獎勵金ニ相當スル額ノ對日供給價格ノ値上ヲ行
 フ

1874

受渡方法ハ後林省ハ大連渡^{rob}ヲ主張セルモ瀋洲領ハ内地

瀋洲渡^{cif}ヲ主張シ相容レズ暫行的措置トシテ十一月十八

日大豆六〇%、大豆粕七〇%ヲD・I・Pニテ經營公社ニ

於テ輸出シ大豆四〇%、大豆粕三〇%ヲ大連、北鮮倉庫

渡ニテ大豆統制會社及有機肥料會社ニ引取ルコトトシ實

施シテリ

6. 軍ノ調辦價格ニ就キテハ瀋洲ノ公定價格ヲ尊重シ軍ノ特惠價格ヲ

認メタル並性價格ニ依ル原則ヲ以テ具體的ニ検討スヘキコトニセ

リ

二、瀋洲貿易一元化

瀋洲貿易ノ一元化ハ特ニ輸備ノ強キ要望ニシテ行政廳及業者間ノ

130

6860

摩擦少カラザリシ處昭和十五年對圓ブツ夕貿易計畫ノ設定及對
滿支輸出物資價格調整要綱ノ決定ニヨリ本邦ヨリノ輸出品ノ
統制強化セラレ特ニ滿洲ハ一括シテ計畫セラレ日本側ヨリモ關東
州貿易統制ノ強化ヲ特ニ要望セラレ此處ニ漸次滿洲一元統制ノ實
現ヲ見ルニ至レリ即チ九月二十六日滿洲協議ノ結果滿洲貿易統制
一元の強化實施要綱ヲ決定シ十月十五日ヨリ實施セリ
2.之ガ爲行政機構ヲ先ツ一元化セリ即チ企畫委員會ノ一部門タリシ
爲替委員會ヲ擴充シ貿易爲替委員會ヲ設置スルコト及臨時爲替局
ヲ改組シ臨時貿易爲替局ヲ設置セリ
3.民間業者ノ組織亦右行政機構ニ準シ一元化スル要アルコト軍ノ主
張ナリシモ既成事實ノ一舉改革ハ此際避ケラレタリ即チ關東州對

1876

0460

易實業組合聯合會（關貿聯）ハ形體上統制ヲ強化スヘキ時勢ノ要
求ニ因應セル如キモ關東州業者保護ノ見地ヨリ結成セラレタル傾
向モアリ設立ノ爲關係方面ニ連絡不充分ナリシ等ノ爲廢豫カ
ラズ

而シテ斯ル地域的業者ノ結合ハ稍モスレハ弊害ヲ生スル虞レアリ
然レトモ關貿聯ハ結成直後ニシテ結成ヲ指導セル官廳トシテノ體
面モアリ然ラズ見テ之ヲ解消シ海關一體ノ業種別ノ統制團體ニ吸收
セラルベキモノト思惟ス

※ 關貿聯北支貿易統制一元化

昭和十五年八月二十八日關貿聯發第三一四五號中ノ對支貿易管理
要綱ハ關貿聯一體ノ輸出入統制團體ヲ整備シ日本ト同様ニ輸出入假

1877

1877

格ノ調整ヲ計ラントスルモノニシテ調整料ヲ滿洲國ニ保有スルコトニ内地側モ同意セリ

三、滿洲對華北間爲替決濟

滿洲國對北支ノ爲替調整ニ關シテハ昭和十五年東京ニ於テ現地相互間ノ協議ノ結果六月末滿洲國借越高一億一千三百万圓ノ内八千万圓ハ昭和十六年度以降三ヶ年間ニ償還スルコト残り三千三百万圓ハ月別償還計畫ヲ立テ昭和十六年末迄ニ之ヲ償還スルコトトセリ

其後滿洲國ノ繰越ノ出廻不振其他ノ理由ニ依リ借越額累増シ十二月末ニ至リ遂ニ一億五千万圓ヲ突破スルニ至リ現地間ニ於テ屢々協議ヲ重ネタルモ具體案ヲ得ルニ至ラス中央部ニ於テモ至急調整

ノ必要ヲ認メ一月二十四日主任者ノ上京ヲ求メ先ツ陸軍省ニ於テ
 協議シ基礎案ヲ作成シ與亞院、對領事務局ヲ經テ企畫院ニ提案シ
 決定ニ導ケリ（昭和十六年一月二十七日滿洲對華北國際收支調整
 ニ關スル打合）右ニ基ク實行計畫トシテ二月一日滿洲、北支間國
 際收支調整ニ關スル件ヲ決定セリ

3. 右ノ措置ハ虛偽弱總策ニシテ根本ニ觸レ核心ヲ衝キタルモノニ非
 ス（通貨政策ニ就テハ此際論議セサル如ク互ニ注意セリ）
 北支勞務者ノ滿洲進出、北支炭及北支棉花ノ滿洲輸入ヲ抑制スル
 コト滿洲カ爲管理ヲ強化スルコトハ共ニ不合理ニシテ滿洲農産
 物ノ北支輸出ノ如キモ今日ノ如キ不成績ハ不自然ナリ此ノ如キ
 條件ヲ基礎トスル原則ハ永久的ノモノニ非ズ殊ニ對滿供給物資ヲ

減少シテ辛シテ北支ノ悪性インフレ阻止ヲ行フ如キハ建議ヨリモ
 破綻セサル爲ノ措置ニシテ積蓄ヨリ消極ヘノ後退ナリ適ニ滿洲特
 産物ノ増産、北支勞務機軸ノ確立等ヲ圖リ以テ消極ヨリ積極ヘノ
 轉換ヲ圖ラザルヘカラス

三、其 他

ノ日本生命保險團ノ出資ニ依ル投資會社設立ニ關スル件

本件ハ十六年一月六日對滿事務局一部專務官會議ニ於テ決定セリ
 其ノ本質ハ日産株ノ開放ニ關スル創意ニシテ滿洲ノ圖資金導入ヲ
 容易ナラシメントスルニ在リ右實現ノ爲對滿事務局及商工省ニ於
 テ生保團側ヲ指導セルモ生保團側トシテハ資本金ヲ一舉四億圓ト
 スルハ過大ナリトノ意見ナリ蓋シ議決權ナキ株式ナルコトニ關係

アル如シ

2. 滿洲電業ニ關スル件

電氣事業ハ滿洲國生産擴充計畫ノ重點ナルニ鑑ミ滿洲國電業事業
統制要綱ヲ昭和一九一八事務官會議ニ於テ決定シ、又同日滿洲
電業會社ヲ滿洲國特殊會社ニ改組シ資本金ヲ倍額ノ三億二千萬圓
ニ増加スルノ件ヲモ決定セリ

3. 日滿支石炭聯盟

商工省ノ諮問機關トシテ昭和十四年十二月二十三日設立セラレタ
ルモノニシテ設立ノ當初ニ當リテ商工省ヨリハ滿洲主要炭業者ノ
參加ヲ求メシメタルモ滿洲煤業會社ヨリノ意見ニ基キ在滿業者カ個人
ニ會員ノ資格ニ於テ燃料局ノ監督下ニアル聯盟ニ參加スルハ弊

善アリトノ見解ニ基キ配給機關タル日滿商事ノミヲ参加セシムル
 如ク指導シ來タリシモ其後滿洲業者ハ單ニ參考資料ヲ提出スルニ
 止リ本協議會ニ依リ滿洲餉ノ諸施策ニ何等ノ拘束ヲ受ケサルコト
 ヲ條件トシテ滿鐵、滿炭、日滿商事、東邊道、本溪湖ノ五社ヲ參
 加セシムルコトトセリ

日滿農政研究會

昭和十四年六月二十六日農林省指導ノ下ニ日滿兩國ニ關聯アル農
 政各般ノ重要事項ヲ調査研究スルノ目的ヲ以テ設立セラレ日本側
 幹事トシテ軍務課長會員トシテ軍務局長參加シアリ
 同會ノ過去ノ實績ヨリ觀察スルニ徒ヲニ政策問題ニ没頭シ基礎研
 究ヲ閉却シアル傾向アリ

9560

今後之ヲ是正スル如ク指導ノ必要アリ

138.

1883